

生ごみは捨てる前に水切り・キュッとひとしぼり！！

問合せ:環境経済課 生活環境担当 ☎ 991-1840

町内の各家庭から出される燃えるごみのうち、生ごみが約2割を占めています。そのごみの8割が水分といわれ、年間にするると約1,000トンの水分がごみとして出されていることとなります。この水分量は、小学校のプールに例えると約3杯分に相当します。

また、生ごみを捨てる前にひと手間かけ、1世帯1日あたり卵1個分(約60g)の水分を減らすことでごみ収集車の運行をおよそ90台分減らすことができます。

ごみを減らすも増やすも皆さんひとり一人に懸かっています。

どのように行うの？

- ▶三角コーナーに溜まった生ごみは、少し時間を置いて水切りをしてからごみ袋に入れます。
- ▶三角コーナーをしぼらく傾けると水分が切れ易くなります。
 - ・水切り器具を使用し、水分を押し出すことによりさらに効果が上がります。
- ▶排水溝に溜まった生ごみは、ペットボトルなどを押し付けてひとしぼり

どのような効果があるの？

- ▶ごみが軽くなり、ごみ出しが楽になる。
- ▶汚水漏れが激減し、悪臭防止につながりごみ置場の環境が良くなる。
- ▶ごみ収集車の燃費効率上がり、二酸化炭素の発生の抑制につながる。
- ▶焼却時の燃焼効率上がり、エネルギーロスが減少するので、ごみ処理費の経費削減が期待できる。

さらに減量するには？

- ▶生ごみを出さないようにしよう！
 - ・調理する際には作りすぎに注意し、料理は最後までおいしく食べましょう。
- ▶生ごみを濡らさないようにしよう！
 - ・野菜などは、洗う前に使用しない部分は、切り落とすなど、濡らさないようにしましょう。

生ごみはリサイクルしよう！

・町では生ごみを堆肥化するため、生ごみ処理機・容器の購入を補助しています。

※水切り器具(水切ダイエット)を環境経済課の窓口で配布しています。(数に限りがあるので、お早めに)



町長コラム

心をコントロールすること



鈴木 勝

私は就任当初、小学生の子ども自転車乗り大会に参加しました。

その時、子ども時代に近くの農家の家の周りをぐるぐる回って遊んだことを思い出しました。当時は車の数も少なく、安全な時代でした。

しかし、現在は車社会となり、少しでも安全確認を怠ると大事故につながります。スピードの出せる自転車に乗って、ルールを守り、一時停止をし、安全に走るためには「心のコントロール」が

必要です。

やがて大人になり、車の運転が出来るようになった時も、一番大切なことは「心のコントロール」です。アクセルを思いっきり踏めば誰でもスピードは出せます。安全運転は、いかに心をコントロールできるかです。

子どもの頃から心のコントロールを養うことはとても大切なことであると認識しました。